

… 雨でも休まず：第146回～147回 …

「若柳・嵐山の森」から

◎定例活動1：12月 4日（第一土曜日）森林整備

*協力協約の森林整備 参加費 300円

◎定例活動2：12月 19日（第三曜日）里山交流

*緑のダム体験学校。参加費1000円。会員500円

*飯は主食だけ持参。自分の食器（椀・皿・箸）を持ってくる事。

● 活動終了後、全体運営会：駅前桂北会館：来期の活動を相談する。

○臨時活動：12月 11日（第二土曜日）NPOアザ基金視察

*詳細は事務局（03-3411-1636）に問い合わせ

■ “必ず申込”：ボランティア保険加入：T&F 03-3411-1636

■ 初参加者：JR相模湖駅前：9時15分集合

JR高尾発：8時42分、9時02分に乗られたし。

○ 服装：汚れて良い格好、滑らない足下、着替え、作業手袋は革製が良い。

○ 持参：保険証写し、自分の食器、活動を楽しむゆとり怪我しない心構え

… 雨でも休まず：活動は8年目に入った …

継続すると言う事

森林活動の第1回目は、1998年11月25日であった。2004年12月4日は活動の8年目第1回目は、活動の146回目となる。

8年目のこの日が何故、嬉しいかは、「雨でも嵐でも休まず継続して来れた事」である。雨が降れば森林作業は休むのが常識だが森仲間素人には、この常識が通用しないらしい。台風の森の中で作業して、相模湖町の人々に「雷の落ちる嵐の中であんた等は、死ぬつもりか」と酷く叱られた事もある。

爾来、雨の日は、無理のない程度にしているが休まない。今は「森林破壊と言う負の遺産を残さない」と言う意思が身に付いた内容になったと思う。それにしても雨天も晴天と同じように森に集まる仲間には驚かされる。

- ・旬の間伐期に22名参加。整備班は弁当持ちでD地区に入った。
- ・お花畠班は、花壇の手入れ・草刈り・ムササビ亭開店と多忙。武藏工大の学生が雨水収水施設の整備に取り組んだ。
- ・間伐材ベンチの注文が入ったからと石村さんが岡さん相棒の速水仲間を連れ去った。炭焼き班の岡班長は、寂しそうだった。石村さん、予告なしにひどいじゃないか。（ゴメン、石村）
- ・間伐活用班は、道具小屋の錠前修理を終了後、前回やり残しの丸太引き出しに専念した。

*以下、その様子を報告する。

富沢・辻田仲間が丸太にワイヤーを掛け、鳶口で丸太をコントロールしながら谷に下ろし更に、ソリを併用して檜2本を製材場所まで引あげた。修理が終わった“集材機：ヒッパリダコ”は快調に働いてくれた。途中で園田総隊長も応援に参加してくれて懸案の杉丸太を玉切りしてくれた。今日も、成果のある充実の日、森に感謝。

同日、北鎌倉の東慶寺で恒例の「匠の市」があり鎌倉在住の兼松仲間を核に参加した。帰路、北鎌倉駅前の“喫茶侘助”でその日参加の仲間たちの間で「カドヤ会議」ならぬ「侘助会議」となった。そこで、「緑のダム北鎌倉は、どう？」の話が出て「いいね、いいね」の話になった。…以上、兼松さんの報告。



「匠の市」の事だが随分、沢山の人出で、ここでも相変わらず当会の“鋸引き体験”に人気が集まった。森林ベテランの邦久少年が堂々の鋸引き指導に集まる参加者たちが驚いていた。驚きのもう一つは、兼松仲間が工夫した「檜チップの枕、チップ檜風呂の素、コースター、竹炭」、それに東慶寺の竹林から引き出した竹引きで大坪仲間や斎藤仲間が即席で作った竹細工が二百円(税込)、五百円(税込)で飛ぶように出ていた事だ。結局、7万円ばかりになって、運営費にしてくれると言う事だ。捨てているものでも森のものは、こんなに価値あるものだと森が教えてくれる。

*「緑のダム・北鎌倉」は、正式には勿論、運営会・理事会の検討を経て総会での承認が必要だか、そんなヒヂ面倒な事は、承認だけでよろしい。フィールドは、東慶寺と隣接する妙智寺の裏山にある竹林を予定。「匠の市」を纏める「N P O 法人北鎌倉の風」の野口さんや斎藤さんとは、北相模とは同じ方向を向いているから来年は、協働事業をやろうじゃないか、…という話も飛び出している。

○ 北鎌倉を、どう取り組むか。

… 報告 兼松まゆみ

17日、大坪さん、斎藤さんと一緒に東慶寺宝物館に迫る斜面の竹藪についてどうされたいか和尚様に伺いました。

和尚様は「竹の子は好物だが、これ以上竹が建物に近づくのは困るので斜面の崩落を防ぐのに古い広葉樹から切らしています」と言われ、斎藤さん「その広葉樹が大事で、全部丸く治める方法があります」と和尚様を口説き、和尚様の大好きな竹藪で庭師と一緒に勉強しながら遊ぶ気にさせてしまいました。

また、今度の台風で崖崩れなどした箇所も大した労力無しに解決できるとの斎藤さんの提案に私、檀家の一人として本当に救われる思いがしました。

鎌倉の禅寺700年の文化財を、静かに、「緑のダム北鎌倉」が守る事になるのだなと、しみじみ感じ感謝しています。皆さん、これからも「北鎌」にご支援宜しくお願いします。尚、東慶寺で使い切れない竹は、市の公園や稲作を子供に教えている会が、炭焼きもしているので、そちらでも使って頂く事になりました。

北鎌倉での活動はユックリ、定期活動日を決めずできる時に許される範囲で活動する、と言う事を運営会で認めて貰いました。

●活動報告2：里山交流

11月21日(霜日曜)

雨上がりの快晴の日、初参加は、東海大付属望星高校の19名とNPO環境資源保全研究会の吉田さん等2名を加えて71名、

元気の有り余る高校生の19名の参加は嬉しいが、怪我でもあっ



スズメ蜂の捕獲器を恐る恐るのぞきこむ。

・今月から試みに以下のような告知欄を設ける。これまで、内容が稚拙で誤字・脱字などもある状態。恥ずかしくて発送後、何時も後悔しているが、発行部数は、約300通。
内容が良くなり部数が増えて、広告費でも稼げるようになれるようになれば良いなあ～。

原稿募集

文字数 400~600字以内。

内 容 森林活動に関する報告、随筆、写真
イラスト、漫画。

*内容に疑問な時は編集委員会で検討します。

掲 載 投稿は、当該月に掲載できない事もあります。

編集員募集

資 格 年齢・性別・国籍、何も問わず。

場 所 石村事務所内（世田谷線若林駅から1分）

給 与 無し。但し、昼飯は家内手つくりの料理と交通費実費。時間があれば、銭湯上りにビールを飲む。石村のおごり。

希望者が多くて嬉しい悲鳴をあげたい。

勤務日 特になし、何時来ても宜しい。但し、連絡する事。

たら学校や父兄にご迷惑を掛けられない。森林整備班は、心配して作業現場のD地区に見学に来ても余り近づかないようにして欲しいと言っていた。そんな事もあって俺いら、午前中はこの高校生の班に付く事にした。午前中のカリキュラムは先ず、林仲間を先生に「葉っぱで考えよう木の特徴」。

この林仲間が並ではない。小学館から発行の「葉で見わかる樹木辞典」の著者でこの本が爆発的に売れている。そんな林仲間の指導だから面白いに決まっている。葉っぱにライターの火を当てたら“パシッ”と弾け実験などして見せてくれた。これは、“あお木”で葉っぱと葉っぱの間の空気が膨張するからだそうだ。

* 森の知恵：昔は、“あお木”をもんで火傷や怪我の薬などに使ったり、薬草とも言えるものです。

葉っぱの勉強後、森林整備D地区の見学は途中、ツルツル滑る急斜面登りも下りも大変だった。小柄な女の子……さん(ごめん、名前を聞いていなかった)の皆さんに遅れまいと懸命に、健気な姿に若いエネルギーに励まされる思いだ。D地区／森林整備の現場では、整備班の仲間たちが黙々とわき目も振らず作業しており活動に見慣れている。俺いらも“あー、何んて人たちなんだろ～”と思ったがこの子たちは、どのように感じただろうか。

“こんな山を16代、400年もの間、守って来た人に会ってみたい”とのリクエストに応えてオジイサン宅を訪ねる事にした。そんな事をお願いしていたのだが、オジイさんは庭に出て待っていて下さった。オジイサンは、森を守る事の大切さを言葉少なに話して下さったが、森の現場でのこんな体験は子供たちにどのような影響を与えるだろうか。最近の凶悪な少年犯罪の起こる世相の中で“緑のダム体験学校”的な自然と真実と触れ合う事こそ必要な教育ではなかろうか。

- ・森林整備班は、250本マーキングした間伐材の内、150本の間伐を終えて順次、枝打ち作業に入っていると報告した。
- ・炭窯班は、少し痛んだ窯を修理した後、火入れをして次回の窯出しが楽しみだと報告した。
- ・間伐材活用班は、山本昌子隊長が復帰したので5本も材の引き出しに成功したと報告した。
- ・造園班は、兎も角も何やかにやで忙しかったと報告した。
- ・初参加の「N P O環境資源保全研究会」は、予想もしなかった“緑のダム”的な森林整備の現場に緊張したと報告した。
- ・高校生たちは夫々全員、森への感動を報告した。

特殊教室を引き受けている引率の宮村連理(れり)教諭の話によると彼が午前の授業を終わって教員室に辿り着くのが大変だという。教え子たちが“レンリ、レンリ”と呼び止めて昼食の出来ない事もあるという。こんな教育者との付き合いが始まった事を森に何んと感謝しようか。

○ その他の報告1：知事と語ろうミーティング：10月31日(第5回)

津久井四町の人々を対象に相模湖交流センターで「水源環境：知事と語ろうミーティング」があった。

250人ばかりが埋めた会場に流域各地：大月・上野原・相模湖・相模原から森仲間14名が県と津久井の人々の考えを聞くために参加した。20名ばかりの発言者の中で「大月・森つくりの会」を主催する河西悦子仲間が上流地域の住民の責任として森を守り、川を守る決意に会場から拍手が沸いていた。須藤章仲間が森林資源の有効活用として「木質バイオマスの熱源開発」に付いて提案した。

終了後、帰りかけると突然、松沢知事が演壇から下りて来て「緑のダムの皆さん、少し話しましょう」と声を掛けて来た。そこで、仲間が集まって簡単な自己紹介と知事から「皆さんと一緒に森を守って行きましょう」と声を掛けて頂いた。

地道に続けて来た活動がこんな形で報いられる事も森からのご褒美なのだろう。

○ 松沢知事：森に來たる。

11月8日

相模湖町役場での津久井四町会議に知事が出席されると言う事で、では森にも寄って頂こうとお願ひしていた。と言うのも日頃、鈴木オジイサンが森の行く末を心配しておられる事から知事に「私たち若いものが守って行きますからご心配なく」と言って下さい」と言うお願ひしていた。

四町会議の終わった4時過ぎ、町役場職員の案内で知事は森に上って来られた。

参加は、鈴木オジイサン、知事と随行2名、相模湖町からご子息の史比古さん(津久井森林組合として)鈴木克枝さん(町議・地主)、当会から尾形(当会理事・林業協会として)、斎藤・須藤仲間と石村。町役場職員。



松沢知事と86歳になられるオジイサン

集合広場の一角で火を炊いて、山野草をいけて、ご子息史比古(フミコ)さんの奥さんに茶を入れて頂いた。静かに楽しく森を語る一時(ひととき)は、至福の時でもあった。

○ 都市部／川崎の人々がどのように考えているだろうかと武藏小杉駅前の会場：中央婦人会館に出かけた。 11月11日。

6年前に川崎市役所を訪ねる事があって水の問題を話し合った事がある。その時、市の責任者は「川崎の水は多摩川から引いています」との返事で啞然とした。

毎日60万トンの水と京浜重工業地帯の発展が相模川の恩恵だと知らない事をである。水だけではない。川崎の発展の原動力の電力だって相模川から引いた水のお陰なのにだ。そんな訳で落胆もしたくないが現在の川崎の人々の認識を知りたいと思った。250人ばかりの会場は満席であった。予想に反して…、…という意味はこの6年の間の皆さんの環境に関する認識がゴロリと変わっていた事である。良い方である。津久井会場同様、真剣な活発な発言が続出した。突然、松沢知事が「この会場に上流の森を守ってい

寄付お礼

… 地域に貢献する …
(株) 東急コミニティ

東急コミニティの皆さん発案で会社が経営するコンビニエンス2店で募金箱を置いてくださる事になりました。もう、一杯になったからと振り込んで下さいました。こんな優しいご協力は、心に浸みます。この11月、3回目のご寄付を頂きました。社長さんには、礼状を出しました。

寄付お礼

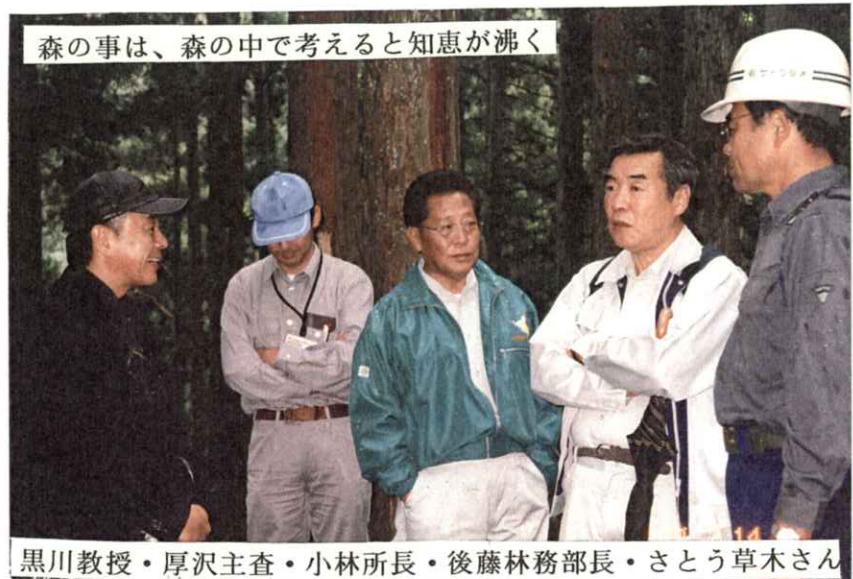
… 清水圭司仲間の経営する…
(有) エコシステムズ

清水仲間は藤沢で造園・家屋改修を営んでいます高円寺のお寺の大木の枝下ろしするため業者さんを紹介しただけなのに多額のお礼を寄付してくれました。造園や家屋改修は(有)エコシステムをご利用下さい。仲間・紹介割引も有るらしい…。清水仲間は、間伐材キット小屋に取り組み始めた

るN P Oの石村さんが来ています。石村さんに何か話して貰いましょう」と指名して來た。

予想もしなかった事だが、川崎の市民の皆さん環境意識が大きく変化している事。森林を考える時は議論に終わらせらず森林現場からも学んで欲しいとお願ひした。何を話したか良く覚えていないが、大月の河西仲間が話した時のように大きな拍手が沸いた。帰路の会場で沢山の人々から励まされた。

○その他報告2：津久井地区行政センター：11月17日



森林N P Oとして「水源の森」は守らねばならない。津久井地区の行政センターとは、本年9月から本格な話し合いが始まっていったが、当会理事の尾形さん(林業協会理事)、ご子息の鈴木史比古さん(津久井森林組合理事)とご一緒に森を守る方法を相談した。話し合いの結果は、「森林N P Oとして事業提案して欲しい」であった。

素人の都市市民のボランティア活動でも継続する事がこのような形になっていた事が驚きだ。何を提案するか慎重に考えてみたい。

○ その他の報告4：11月22日：「水源環境の保全・再生」

この問題について県内各地で「知事と語ろうミーティング」が開催され11日で終了した。いろんな事を考える事があって「森林と都市生活者をむすぶ活動・協議会/懇話」は、担当部署に面会を申し込んだ。

申し込みから開催まで10日間しかないが県/担当部署は、この県民集会の意見・提案の受け付けの最終日が22日(月)で、当会の意見を12月の県議会に間に合わせるために無理をしたそうだ。

当会の仲間たちも殆どがサラリーマンで、そうでなくとも忙しい毎日を送っているのにどの位、集まって貰えるかが心配だったが、遠くは山奥の丹波山から朝4時半に家を出て来たという中田無双さんなど21名が集まってくれた。県側も急な話で会議室が取れなかったと県庁から離れた「自治会館」に特別に部屋を準備して待っていてくれた。

炭窯班員募集

地球を明るくする岡仲間と臼井仲間が夫々、フィリピン、ボルネオの海外勤務で数年、森に来れなくなります。後は、速水仲間が引継ぎますが欠員に付き、班委員大募集。お知り合いを森に連れて炭窯班に押し込んで下さい。
尚、岡仲間、臼井仲間には、郵便代が高く付きますが月次会報を毎月、送る事にします。

店長：ムササビ亭

資 格 年齢、性別、国籍、経験問わず。
責任も無し。但し、店長仕事を楽しむ事。
何か面白い、楽しい事を取り入れる事。
場 所 若柳・嵐山の森の中
給 与 無給、
申 込 里山交流(お花畠)班 … 清水・丸茂

神奈川県の人口 850万人の内、川崎・横浜が500万人で森林地域の人口が10%にも満たないため「県民集会」などの意見の大部分が都市側の意見に支配されてしまう。当然、政策もそうなる。

今回、水源環境という政策でもそうなってしまう。更に、森林地域の人々は口が重い。そんな事もあって森林地域の人々の心の中には、鬱々としたものなると思う。これをそのままにして置いてはいけない。成るべく多く森林地区の人々に集まってもらったが何人もの人が朝、4時半に家を出て来てくれた。

県との話し合いは、森林地域の苦悶苦惱が聞こえていた。県の職員も県民集会や県議会で聞けない森林現場の赤裸々な声に驚いていた。県はきっと、今日の話は政策に生かしてくれると思う。

今日の内容は、HPなどで公開する。

● ボランティアの原点を忘れずに

… 日経新聞11月15日の記事より …

以下、聖路加病院の日野原理事長（6つの会の理事長、全部無給）の話を以下、要約した。

最近、イラクまで出かける女性までいて表面的というか、上滑りが心配です。

人の役に立つ助けるということは非常に重いことです。まず問われることは専門性です。情熱だけではどうにもなりません。教育にしろ農業にしろ、その道に精通していることが前提です。

NPOの事業性についてですが、経営感覚は欠かせませんが、やはり基本はボランティア精神でしょう。知人の銀行員の米国の女性は、毎週月曜夜、病院のボランティアを続けています。もう三十年。偉くなつた今も続けています。もちろん、無給です。

日本のNPOを見ていると、寄付で運営しているのにスタッフをたくさん雇う。ボランティアまで有給。会社と同じで雇用が確保が目的で働く人のための組織になってしまっている。社会や人のための事業に、経済的見返りは期待すべきではありません。スタッフは薄給、ボランティアは持ち出しが当たり前です。志ある人達が集まり、善意に基づいてお金を出し合って運営する。これが原点です。

参加者募集：「NPO法人アサザ基金」への勉強会

茨城県の霞ヶ浦（石岡）を拠点とする「アサザ基金」は、三島（静岡）の「NPO法人グランドワーク」と並ぶわが国の環境保護NPOの双璧と言われている。「アサザ基金」の飯島さんとは、お近付きになっており、見学させて欲しいと申し入れていた。当会活動も地域に少し影響力を持ち始めた事からもう少しキチンとしたものにしたいと思う。そこで飯島さんに聞いたら「いいよ、是非、おいで」と言う事になった。

行程：12月11日（第二土曜日）：

新宿発（午前7時）～石岡着（午前10時）～ 見学・意見交換会 ～石岡発（午後16時）～新宿着（午後20時）

内容：1) 学校ビオトープ、NECエコセンサーシステム見学

2) 湖岸復元事業の実際：経過～結果～これから

3) 里山保全事業の現状：水源地・湧き水保全・谷戸・休耕田

意見交換：飯島さんの「霞ヶ浦」の湖川環境の保全・再生の実践と経験を借りて、相模川流域をつなぐ「水源環境の保全・再生」に生かす知恵を応用する。休憩時間（昼食）を長めに取って情報交換と指導を受ける。

参加費：3000円（レンタカー+高速料金+アサザ基金研修費払い+資料費）、不足金は会より負担。

募集人数：10名、会員外でも受け付ける。人数になり次第、締め切る。

続：小栗判官照手姫伝説

閻魔堂に葬られた小栗判官を熊野のお湯に入ると治癒するという閻魔王のお告げにより、遊行上人は車を作り二人の僧をつけ、熊野に行きました。小栗判官は、本宮湯の温泉に入り全快しました。

一方、小栗判官に猛毒の入った酒を飲まないように告げた照手姫は、横山太郎の追っ手に囚われ衣類はぎとられ、武州金沢の持従川に投げ込まれました。

照手姫は、一心に觀世音に念じました。不思議にも六裏千光寺の觀世音はたちまた光を現し、難をのがれました。野島崎の漁夫、これを見て感嘆し、家へ連れ帰りました。漁夫の妻は、あまりの照手姫の美しさに嫉妬して殺そうと企むが、觀世音の靈験のためにそれができず、人買いに渡してしまいました。

その後、照手姫は、濃州（岐阜）青墓にて運命を嘆きつつ月日を送っていました。

全快した小栗判官は、謀反のこころが無かったことを朝廷に申し出、許されて小栗城に帰り、その後京都の命により横山太郎一族を討ち取りました。

小栗判官は、遊行上人の慈悲ある恩に報いるため、閻魔堂で快癒の像を刻み大法会を開く。そして、濃州にいた照手姫を迎えると共に幸せに暮らしましたが、1946年（応永33年）にこの世を去りました。子息小次郎助重、鎌倉へ参府し藤沢山に入り亡父と家臣10人の墳墓を八徳池のそばに造営して、謝恩の供養をしました。照手姫、菩提心深く、その年髪を剃り長照比丘尼と号し、閻魔堂のほとりに尊堂を安置しました。照手姫は、小栗判官の像にかしづき、朝夕専修念佛を唱え、1440年（享永12年）この世を去り、長照院仏坊と号し藤沢山手院の一坊となりました。

法楽和歌 小栗判官満重の句 うちむこう 心のかがみくもらすは
げに熊野の神や守らん

照手姫の句 世のうさを 身にしつますはついにこの
仮の道もしらずですぐらん

文責 中里

- 1 12月 4日(第一曜日) 定例：森林整備に注力
- 2 12月 19日(第三曜日) 定例：里山交流
- 3 12月 11日(第二曜日) 臨時 アサザ基金研修
アサザ基金は、霞ヶ浦を拠点に利根川の上流～中流～下流をつなぎ当会活動の先駆格の活動です。詳細は左記事務局迄。

モットー／休まず・無理せず・楽しく、ボチボチと
そして、沢山のご意見、参加下さい。

名 称／さがみ湖・森つくりの会
：N P O 法人緑のダム北相模／森林部会
事務局／〒154-0023 世田谷区若林3-35-9
T&F 03-3411-1636：石村事務所内
発行者／事務局 石村黄仁

- 協 動
団 体



* H P : h t t p : // w w w 0 0 8 . u p p . s p - n e t . j p / k i t a s a g a m i

N P O 緑のダム北相模の森林保全活動は左記の団体との協働事業として実施しています。